

廃棄物実態調査票の記入要領・記入例

実態調査票【その1】の記入例

※この資料には、調査票の具体的な記入例が記載してあります。

※自社で発生した廃棄物すべてが対象となります。再生利用、売却をしている場合も記入してください。

※ご提出いただいた調査票の記入内容について、電話等により確認させていただく場合がありますので、必ず調査票の控えをとっておいていただきますようお願いいたします。

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考にして調査票【その1】を記入してください。

事業所の概要	事業所名	株式会社〇〇		事業概要 (具体的に) 野菜の栽培 (きゅうり、トマト)
	所在地	熊谷市〇〇-△△-□□		
	代表者氏名	埼玉 太郎	記入者 ふりがな (部課、氏名) 〇〇部〇〇課 さいたま はなこ 埼玉 花子	
	記入年月日	令和6年△月〇日	電話番号 123-456-7890	

事業の概要	従業員数	施設面積 (ビニールハウス、ガラス室等)
	貴事業所の現在の従業員数(パート等の臨時職員及び役員等を含む)を記入してください。	貴事業所の施設面積(ビニールハウス、ガラス室等)を記入してください。

従業員数: 10人

施設面積: 500㎡

「施設面積」の記入について
1. 施設面積とは「ビニールハウス、ガラス室等」の合計です。
2. ビニールハウス、ガラス室等がない場合は、「0(ゼロ)」と記入してください。

令和5年度の1年間に廃棄物(再生利用、売却、無償取り引きしているものを含む)は発生しましたか。該当する番号に○を付けてください。

① 発生した。 → ② 発生しなかった。

上記の「事業所の概要」、「事業の概要」を記入の上、ご返送ください。

貴事業所から発生した廃棄物を事業所内で焼却していますか。

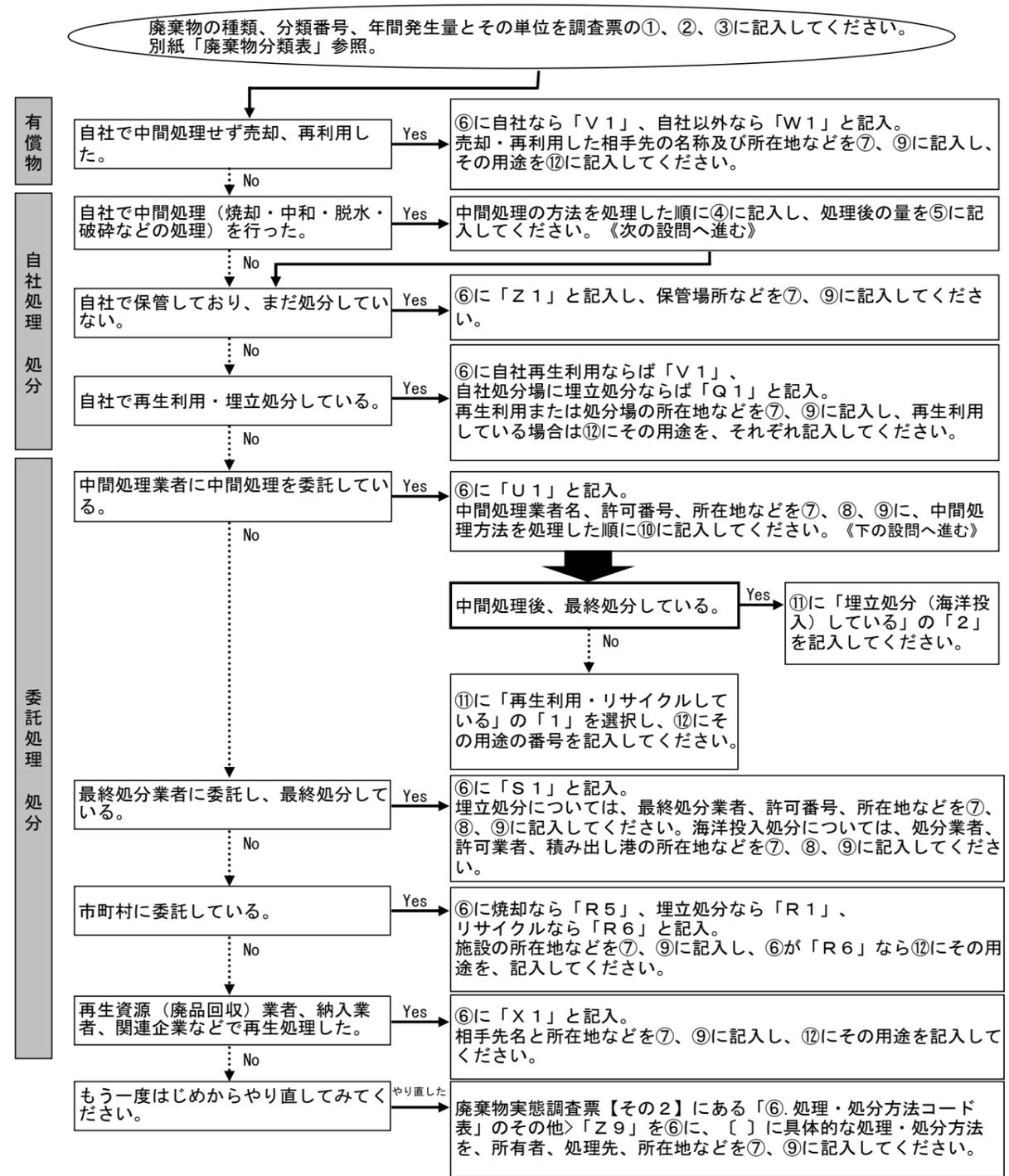
① 焼却している(熱利用していない)
② 焼却している(熱利用している)
① 熱利用(乾燥、給湯、暖房、冷房等)
② 発電
③ その他 []
0. 焼却していない

貴事業所から発生した廃棄物を事業所内で脱水していますか。

① 脱水している。
② 脱水していない。

※調査票【その2】に貴事業所から発生する廃棄物等の状況について、記入してください。

実態調査票【その2】の記入要領フローシート



実態調査票【その2】の記入例

調査対象期間

●この調査の対象期間は、令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の1年間です。この期間中の廃棄物（再生利用、売却、無償取り引きしているものを含む）の発生と処理・処分の状況を質問①～⑫までの流れにしたがって記入してください。

調査対象とする事業所と廃棄物

●この調査では、調査票が送付された事業所内で発生した廃棄物（再生利用、売却、無償取り引きしているものを含む）だけが記入の対象となります。
●廃棄物がどのように分類されているかを示すために、別紙に「廃棄物分類表」を掲げてありますので参考にしてください。

発生量について

●発生した廃棄物の「名称」と「数量」の回答欄には、「焼却」、「脱水」等の処理を行う前の「名称」と「数量」をお答えください。

○自社で焼却している場合、発生した廃棄物とは焼却前のものです。（記入例Bを参考にしてください。）
木くず、紙くず、廃プラスチック等を焼却している場合の「③年間発生量」は、焼却前の量です。従って「①廃棄物の名称」、「②分類番号」は、燃やす前の名称とその分類番号となります。なお、焼却後の灰の量が「⑤中間処理後量」となります。

○自社で脱水している場合の発生した廃棄物とは脱水前のものです。
汚泥の発生量は、脱水、乾燥等の中間処理を行う前の量であり、脱水機等に投入された1年間の量が「③年間発生量」となります。なお、脱水前の重量を把握していない場合は、下記の式により計算してください。
＜式＞：（脱水前の汚泥発生量）＝（脱水後の汚泥量）×（100%－脱水後の含水率%）÷（100%－脱水前の含水率%）

●ただし、以下のものについては、中間処理後のものを発生量としてお答えください。
○廃酸、廃アルカリを公共水域（河川、公共下水道等）へ放流するために中和処理した場合。→中和処理後の「汚泥」を発生量とします。
○含油廃水を油水分離した場合。→油水分離後の「廃油」と「油でい」等を個別に（それぞれ1行ずつを）発生量とします。

記入について

●同じ種類でも中間処理方法や処分方法、委託処理先等が異なる場合は、質問①の欄から行を分けて記入してください。

●発生量等をkg（キログラム）又は、t（トン）以外の単位で把握している場合は、できる限り換算して記入してください。また、個数や本数の場合も1個当たりの重量等より換算してください。

●処理業者等へ処理・処分を委託していて不明な点は、具体的な内容を業者に確認したうえで記入してください。

④中間処理方法コード表

- A：焼却
- B：脱水
- C：天日乾燥
- D：機械乾燥
- E：油水分離
- F：中和
- G：破碎
- H：分級
- I：圧縮
- J：熔融
- K：切断
- L：焼成
- M：堆肥化
- N：銀回収
- O：コンクリート固化
- P：金属（鉄）回収
- Q：非鉄金属回収
- R：濃縮
- S：油化
- T：ばい焼
- U：洗浄
- V：分解
- Z：その他

⑥処理・処分方法コード表

- <自己処理>
Q1：自社の処分場で埋立処分した。
V1：自社再利用した。
W1：売却（利益があった）した。
Z1：自社で保管している。
- <産業廃棄物処理業者等（他社）で処理>
S1：処理業者の処分場で直接埋立処理（海洋投入）した。
S2：埼玉県環境整備センターで直接埋立処分した。
U1：処理業者に中間処理（資源化・リサイクルを含む）を委託した。
X1：廃品回収（資源）業者、あるいは納入業者、関連企業等で再生処理をした。
- <市町村で処理>
R1：市町村等が設置する一般廃棄物処分場で埋立した。
R5：市町村の清掃工場で処理した。（ごみ収集を含む）
R6：市町村の清掃工場でリサイクルした。
R7：市町村の農業用廃プラスチック収集処理事業で処理した。（市町村及びJA等での回収）
- <その他>
Z9：その他

⑩中間処理方法コード表

- A：焼却
- B：脱水
- C：天日乾燥
- D：機械乾燥
- E：油水分離
- F：中和
- G：破碎
- H：分級
- I：圧縮
- J：熔融
- K：切断
- L：焼成
- M：堆肥化
- N：銀回収
- O：コンクリート固化
- P：金属（鉄）回収
- Q：非鉄金属回収
- R：濃縮
- S：油化
- T：ばい焼
- U：洗浄
- V：分解
- Z：その他

⑫資源化用途コード表

- 10：鉄鋼原料
- 20：非鉄金属等原材料
- 30：燃料
- 41：飼料
- 42：肥料
- 43：土壌改良材
- 50：建設材料
- 60：パルプ・紙原材料
- 70：ガラス原材料
- 80：プラスチック原材料
- 81：再生タイヤ
- 90：セメント原材料
- 91：再生油・再生溶剤
- 92：中和剤
- 93：高炉還元
- 98：その他

太字の部分が、記入事例箇所を示しています。記入例を参考に調査票【その2】を記入してください。

別紙「廃棄物分類表」を参照してください。

微量又は液状廃棄物を焼却し、焼却灰が1kg未満の場合は、「0（ゼロ）」を記入してください。

廃棄物を委託している場合で、委託後の具体的な処理・処分を把握していない場合は、委託先へ確認して記入してください。また、不定期の回収業者等で、住所などの詳細が不明な場合は、わかる範囲で記入してください。

地域番号は別紙「地域番号表」を参照してください。

⑪処理後の処分方法
1 再利用・再生利用している
2 埋立処分（海洋投入）している

区分	行番	①廃棄物の名称	②分類番号	③年間発生量					④方法番号					⑤中間処理後量					⑥処理・処分方法	⑦処理・処分先又は再生利用先の名称等	⑧委託処理業者の許可番号	⑨処理・処分先又は再生利用先の所在地			⑩方法番号	⑪処理後の処分方法	⑫資源化用途	
				百	十	万	千	百	十	1次	2次	3次	百	十	万	千	百	十				所在地	地域番号	1次				2次
記入例：A	1	肥料袋	0614															U1	××商店	(0000)00-000	××××××××××	都道府県	熊谷市	103	A	1	2	
記入例：B	2	ビニールハウスの被覆用塩化ビニールフィルム	0614														A	〇〇	(0000)00-000	××××××××××	福島都道府県	いわき市	07		1	2		
記入例：C	3	マルチ栽培用のポリエチレンフィルム	0612														R7	深谷市	(0000)00-000	××××××××××	都道府県	深谷市	116		1	2		
記入例：D	4	農業の空き瓶	1310														U1	△△産業	(0000)00-000	××××××××××	都道府県	秩父市	106	G	1	2	70	
	5																	()	-		都道府県	市町村			1	2		
	6																	()	-		都道府県	市町村			1	2		
	7																	()	-		都道府県	市町村			1	2		
	8																	()	-		都道府県	市町村			1	2		
	9																	()	-		都道府県	市町村			1	2		

記入例：A
・使用済み肥料袋が年間50kg発生している。
・この処理は、熊谷市の××商店に委託した。
・委託先では、焼却した後、自社の埋立処分場に埋立している。

記入例：B
・ビニールハウスの被覆用塩化ビニールフィルムが年間250kg発生した。
・これは自社の焼却施設で焼却しており、燃え殻は年間20kgであった。
・燃え殻は、福島県いわき市にある(株)〇〇に、埋立処分を委託している。

記入例：C
・マルチ栽培用のポリエチレンフィルムが年間50kg発生した。
・これは深谷市が実施している農業用廃プラスチック収集事業で回収してもらった。

記入例：D
・農業の空き瓶が年間100kg発生した。
・これは、秩父市にある△△産業に委託した。
・△△産業では、空き瓶を破碎し、ガラス原材料として再生利用している。